

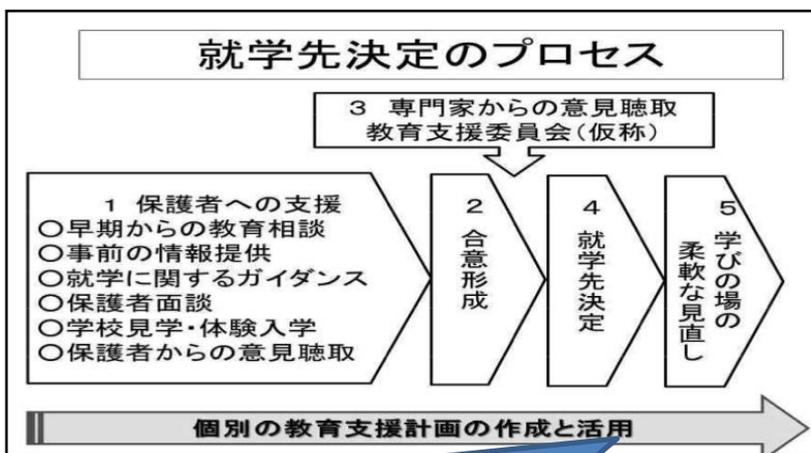
阿蘇のかけはし 第3号

れいわ ねん がつはっこう あそしとくべつしえんれんけいきょうぎかい
令和2年2月発行 阿蘇市特別支援連携協議会

阿蘇のかけはし第3号では、①就学決定の手続き ②ちょっと知りたい特別支援教育「文字を読むことの苦手さ」③研修会報告の3つの記事を掲載します。なお、第1号・第2号の啓発紙も、阿蘇市内の小中学校のホームページで見ることができます。過去の啓発紙も是非、御覧ください。

①どのように就学先を決定するの？

小学校や中学校の就学決定についての手続きの流れは以下のとおりです。就学先を決めるに当たり、障がいの状態や本人の教育的ニーズ、保護者の意見、また、専門家の意見、さらには、学校や地域の状況等を踏まえた総合的な観点から決定される仕組みとなっています。特別な教育的ニーズのある子供たちが、すこやかに成長し、よさやかな可能性を最大限伸ばして自立と社会参加ができるよう、一人一人の教育的ニーズに応じた指導と支援を行っています。手続きの流れについては、下記の表を御覧ください。



←「就学事務の手引き～障がいのある子供の就学手続きと早期からの一貫した支援の充実～」
平成26年3月 熊本県教育委員会より（熊本県教育委員会HPよりダウンロード可能）

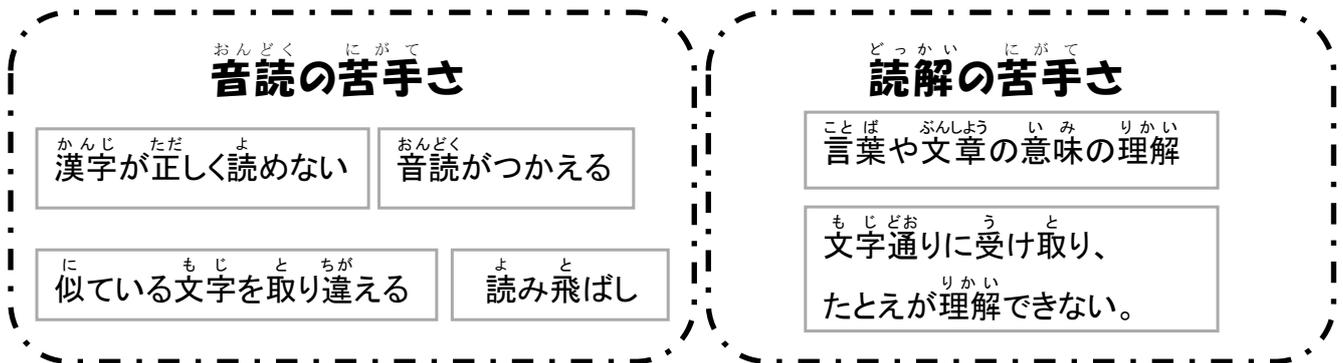
就学先を決めるに当たり、できるだけ早いうちから小中学校や特別支援学校を見学したり、体験入学（実際に授業に参加し、学習活動を体験する）を行ったり、先輩保護者の体験談を聞いたりして、学校のことや教育内容等について、情報を集め、就学を希望する学校のことをよく知っておくことが大切です。

特別支援学級の新設・増設が必要な場合など、前年度から継続した相談が必要になることもあります。※スケジュールは、第2号を参照ください。

② ちょっと知りたい特別支援教育 「文字を読むことの苦手さ」について

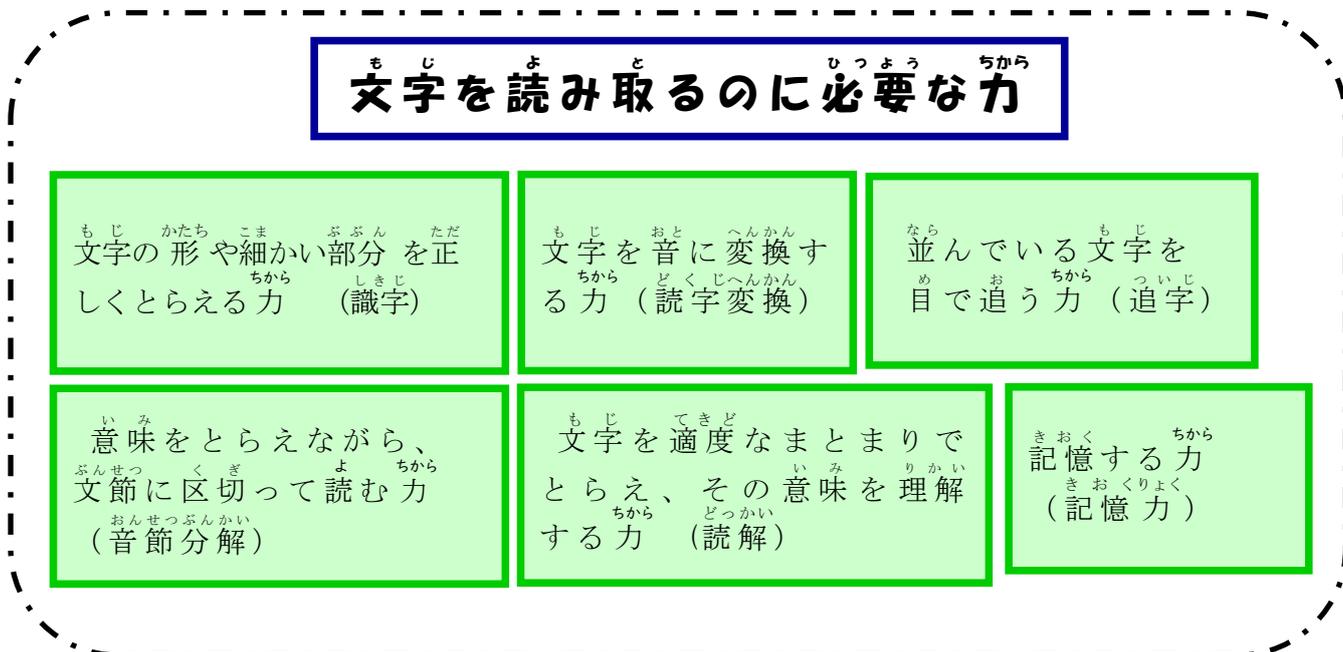
音読をする際に、文字を一つ一つ読む、たどたどしい読み方をする、単語や文節の区切りを誤って読んでしまうなど、読むことに困っている場面を見受けます。苦手だから、たくさん練習をさせたり、間違えることを叱ったりしてはいないでしょうか？

ここでは、読むことが苦手なことについてどのような支援がいいかをまとめてみました。大きく分けると、音読の苦手さと読解の苦手さがあるようです。



なぜそのようになるの？

読むことが難しいのは、情報処理の不具合によるものが考えられます。文字を読みとるために必要な力として下記のような力が必要ですが、どれか一つの力に支障があっても読むことにつまずきます。やる気がないのではないので、どこでつまずいているかを観察し、その部分をカバーしていくことが必要です。



どうしたらいいの？

いくつかの例を挙げてみます。

(音読の手立て)

- 縦書きと横書きでの読みやすさの違いを調べる。
- 文字を拡大する。
- 行間を広くする。
- 読み仮名をうつ。
- 定規を当てたり、指でなぞらせたりして、読んでいる所に注目させる。
- 文節ごとに、区切りの線（/）を入れる。
- マーカーで色をつける。等

(読解の手立て)

- 文字カードや絵カードを使い、絵・文字や音声と物事を表すことばをすぐに結びつけられるようにする。
- フラッシュカードなどを用いて、単語をまとまりとしてすばやく読み取れるようにする。
- 子供の話したことばと、実際の書字（黒板・カード等）が、一致できるように支援する。
- ことば遊びやゲームを取り入れる。（ことば探し・神経衰弱・単語と物のマッチング・音の聞き分け等）
- 短い文から読ませ、うまく読めた達成感をもたせる。
- 読み聞かせや絵本を活用する。

支援上で大切なことは？

できるようにするために、訓練のように何回も練習させたり、たくさん読ませたりするよりも、量や内容を調整しながら、1回目より2回目にできたところを認め興味・関心を高め、根気強く支援していくことが必要です。

*その他

見え方が異なる場合（文字が歪んで見える、重なる）は、人とぶつかりやすい、ボールを受け止めにくいなど、日常生活の他の場面でも不都合を感じている場合が多いのでその時は、専門機関での相談も考えてみましょう。

③ 研修会報告

インクルーシブ教育の実現には一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導や必要な支援を行う必要であることから、「阿蘇市内小・中・高等学校の特別支援教育コーディネーター及び希望する教職員を対象に、資質の向上及び指導・支援の充実を図る」ことを目的に阿蘇市特別支援連携協議会では、毎年研修会を実施しています。



今年度は、12月10日に一の宮小学校を会場に、スクールカウンセラーの塚元 徳子様を講師にお迎えして、学習障害のうち、特に読み書きに困難があるお子さんに特化して「読み書きが苦手なお子さんの理解と対応について-実践編-」の演題で講話をしていただきました。

【学習障害とは？】

- ・聞く・読む・話す・書く・計算する・推論する能力のうち、特定のものの習得に著しい困難を示す。
- ・中枢神経系の機能障がいであり、他の障がいや環境に起因しない。

学習障害をもつお子さんへの対応で最も重視すべきことは、「つまずきの背景を探ること」です。調節機能・眼球運動・視覚認知・目と手の協応・姿勢保持・書字、読字の項目のどの部分に困難さがあるか検査によって把握し、困難さに対応したトレーニングを行っていきます。一定期間トレーニングを実施した後に再検査を行い、どれくらい変化したかを確認することが重要です。

「分からない」「できない」という感情をもつ子供たちの自己肯定感の向上を目指していくことを支援者である私たちは忘れてはなりません。



研修会では、具体的な指導・支援の方法について学ぶことができ、参加者からは、「さっそく実践に生かしていきたい」「明日から頑張っていけそうだ」といった前向きな感想がたくさん寄せられました。

今後も、研修をもとに、子供たち一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導や必要な支援ができるよう、教職員の資質の向上及び指導・支援の充実を図っていきます。